

世界各国の「草地」の使い分け

“grassland”, “pasture”, “sward”, “meadow” or “rangeland”

mghs15 (<https://github.com/mghs15>)

Introduction

- 一言で「草地」といっても英語での表現は多様。
- 厳密には違いがあるが、重なる部分も多く、選択は著者に任せられている。

Question

「草地」の表現に国別の傾向があるかどうか？

単語	厳密な定義 (Allen et al. 2011を参照)
grassland	放牧、採草もしくはこれら両方のための茎葉飼料の生産に利用される土地あるいはその植生。 (人為的管理下で“pastureland”と同義。)
pasture	柵もしくは他の障壁により囲まれ、互いに隔離されており、主として放牧利用するための茎葉飼料生産に用いられる放牧管理単位の一つ。
sward	樹冠の形状を示す。草本植物の個体群あるいは群集で、比較的、草高が低く、連続的に地表を被覆する植生をもつもの。地下部を含む。
meadow	採草地。乾草やサイレージとしてしばしば貯蔵利用される自然草地あるいは半自然草地。
rangeland	牧野。在来植生が、採食可能なイネ科、イネ科様植物、広葉草本、低木により優占され、放牧動物生産のための自然生態系として利用される土地。

Conclusion

草地を示す単語に、国別傾向は存在した。

- 本調査で、最もよく用いられていたのは“grassland”で、次に“pasture”、“sward”が続いた。
- オセアニア諸国（豪、NZ）は“pasture”を、ヨーロッパ諸国（特に英、アイルランド）は“sward”を利用する頻度が他国よりも高かった。

Material and method

- 調査雑誌：草地に焦点を当てた二誌
Grassland Science誌
Vol. 62 最新1年間

- Grass and Forage Science誌
Vol. 69 (3) ~ 71 (3) 最新3年間

- 対象論文：原著論文、短報、ノート、総説
 - 各論文と各単語の割り当て（代表単語の設定）：
 - タイトルに含まれている単語
 - 使用単語が最も多い単語
 - その他、筆者の主張部分で利用頻度が高いもの
- ※1~3の順に優先度が高い。ただし、植物名、機械名、組織名などもあるため、上記を基本としつつ、総合的に判断した。草地に言及していない論文は代表単語なしとした。

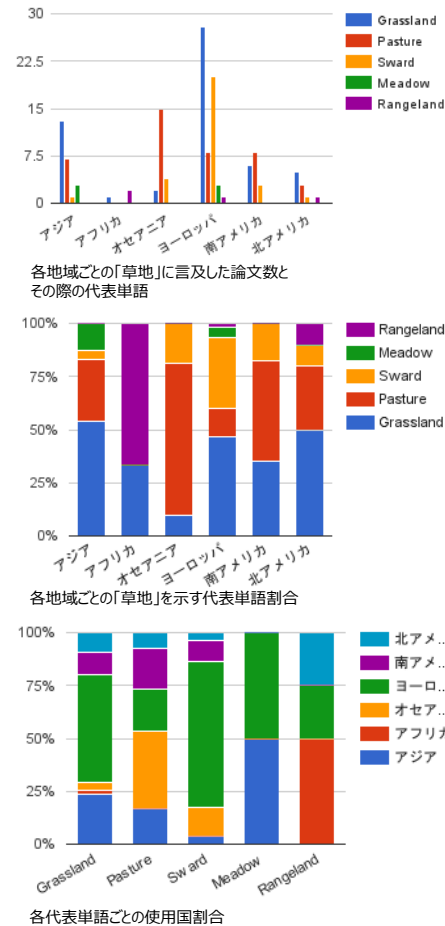


Results and discussion

各国の「草地」を示す代表単語の使用頻度

	G	P	S	M	R	Total*
Argentina	2	3	1	0	0	9
Australia	1	9	0	0	0	13
Austria	1	0	0	1	0	2
Belgium	0	0	2	0	0	3
Brazil	3	5	2	0	0	17
Canada	2	0	0	0	0	4
Chile	1	0	0	0	0	1
China	10	1	1	3	0	22
Colombia	0	0	0	0	0	1
Czech	1	1	0	1	0	5
Denmark	0	0	1	0	0	1
Estonia	1	0	0	0	0	1
Ethiopia	1	0	0	0	0	1
Finland	1	0	0	1	0	2
France	4	0	0	0	1	5
Germany	4	0	0	0	0	6
Iceland	1	0	0	0	0	1
Ireland	3	0	7	0	0	11
Italy	1	4	0	0	0	7
Japan	3	5	0	0	0	14
Jordan	0	1	0	0	0	1
Kenya	0	0	0	0	1	1
Netherlands	1	0	1	0	0	3
Norway	1	0	0	0	0	2
NZ	1	6	4	0	0	13
Portugal	0	1	0	0	0	2
South Africa	0	0	0	0	1	1
Spain	3	1	0	0	0	5
Sweden	2	0	4	0	0	11
Switzerland	1	0	0	0	0	1
UK	3	1	5	0	0	11
Uruguay	1	0	0	0	0	2
USA	2	3	1	0	1	12
総計	55	41	29	6	4	206

*Totalは草地に言及しない論文も含む。



雑誌ごとの掲載国の傾向

- Grassland Science誌は日本草地学会が出版しており、中国、ブラジル、日本の論文が多かった。
- Grass and Forage Science誌は英国草地学会が出版しており、ヨーロッパの論文が多かった。

国別の各単語使用頻度

- 全体では、“grassland”が最も多く、“pasture”、“sward”が続いた。
- “grassland”は各国で用いられており、定義が広範であることから、さまざまな用途で用いられていると言える。
- “pasture”は豪州、NZの他、ブラジルやイタリア、日本で多く用いられており、人為的に放牧用地として、パドックごとに管理された草地を対象とした研究が盛んであることがうかがえる。
- “sward”は主に英国、アイルランドを中心にヨーロッパで用いられる他、NZでも使用頻度が高かった。
- “meadow”や“rangeland”は、自然、半自然草地を示すが、“(semi)natural grassland”等で言及されることが多く、使用頻度はかなり低い。事例数は少ないが、“rangeland”は砂漠やステップ等も含まれるため、アフリカにおける草地利用を表現するのに適すると言える。
- その他、混播草地を示すのに“mixture”を用いたり、“pampa”や“prairie”など、その土地固有の表現も存在した。